

編集後記

本誌の発行される頃には年の瀬も押し迫り、街中がなんとなく騒々しくなり、懐も温かくなって、思いの外散財をする時期かと思えます。ひるがえって世の中をみると、地球の片すみでは、我々が終戦時に経験したよりも、もっと酷い飢餓の世界がみられます。師走にうかれている日本はなんと平和な国だろうと思えます。しかしながら日本中がみな中流になって貧を忘れた時に、その付けは我々の子孫にめぐって行くのではないかと心配するのは世代の差でしょうか。オイルショック、ヘマトキシリンの入手難はつい最近の出来事です。平和であることは良い事です。しかし学問の世界はある意味では戦争です。すべてが肥満では闘争意欲もわかず、ハングリの精神も必要なのではと思えます。1年をかえりみて上記のような反省をしてみました。編集の方も無事に終りほっとしています。

(名和橙黄雄)

何年か前に別の雑誌の編集委員をした時投稿が少なく苦労した事があります。いつも、いざという時のために、手もとに一編は論文を書き上げておく事がいわば義務づけ(?)られていたような気がします。

岩医大歯誌は実に幸福です。投稿締切にやや遅れてばさっと入稿する様な例外もありますが、各分野からいろいろな論文が届き、引用論文をまず編集委員とし

て目をとおり、本文をじっくり読ませていただくと、出来上がった雑誌の上で、論文を読む以上によく理解出来るという「特権」が与えられているからです。前述致しましたように自分で補足用の論文を用意する必要もなくという大きな利点を持っての事です。

そろそろ学内での大学院生卒業用論文の投稿も始まりが近づいてきますが、投稿規定(抜粋)を十分ご理解いただいで、広く各方面からのご投稿をお待ち申し上げております。師走という言葉があるから、いそがしくなる12月ですが、この1年間誠にありがとうございました。

来年も又よい年でありますように。(坂巻公男)

このたび9巻3号が発行されるはこびとなりました。本号は原著8、症例報告1の計9編です。発刊日時が多少遅れてしまいました。これも編集者が著者と十分時間を取って、よい内容の論文を会員におとどける心ずもりからだと思えます。

なお、本誌は高い水準の論文を発表していることから、世界的な抄録誌である米国の Chemical Abstracts Service に掲載されることになりました。今後益々本誌が充実したものであるように努力して参りますので、宜しくご協力の程お願い申し上げます。

(伊藤忠信)

岩手医科大学歯学雑誌

第9巻 第3号

昭和59年12月10日 印刷

昭和59年12月15日 発行

発行人 鈴木 隆

発行所 岩手医科大学歯学会

盛岡市中央通1-3-27

岩手医科大学歯学部内

振替口座 盛岡 1358

電話 0196-51-5111

印刷所 川口印刷工業株式会社

盛岡市本町通2-13-8